てっぺんの葉っぱ

「考えること」で前向きに

4年　M・Nさん

「何度でもチャレンジして、同じ間違いをしないようにしたら、良いんだ。」

この本を読んで、私が一番心に残ったのは、真知のこの言葉です。私は、おとなしくて自分の意見を言うのが苦手だった真知が、最後には前向きになれたのは、いろいろな事を自分で考えるようになったからだと思います。

真知は、由利亜ちゃんに言われて、窓から花びんの水を捨ててしまいます。その水が副校長先生にかかってしまい、それから由利亜ちゃんと話せなくなってしまいました。私は、何も考えずに人に言われた通りに行動すると、思いもよらない事が起きる場合があるのだと思いました。もし真知がずっと自分で考えないままだったなら、由利亜ちゃんと再び話せるようにはならなかったかもしれません。

私は今まで、友達と話せなくなったら、あやまれば元通りになれると思っていました。でも、この本を読んで、ただあやまるだけではなく、なぜそうなったのか、相手はどんな気持ちなのかを考えることも大切なのだと思いました。

真知のお母さんも、お父さんもふくめてみんながあやまちを起こすと思います。でも、そのあやまちをずっとくよくよ悩むのではなく、前向きにとらえることが大切です。「次はどうしたら良いだろう」と考えれば、あやまちを次に活かすことができると思います。

私も、失敗するとくよくよしてしまいます。しかし、真知の言葉を読んで、失敗した事をずっと悩むより、そこから何かを考えて、次のチャレンジにつなげれば良いのだと思いました。

この本を通して、私は自分の直したい所に気づきました。これから失敗した時は、落ちこむだけではなく、次はどうすれば良いかを考え、何度でもねばり強く挑戦していきたいです。